

物価高 8月もつらかった

実質賃金、17カ月連続減少

厚生労働省は6日、8月分の毎月勤労統計調査（速報）で、物価の影響を考慮した働き手1人あたりの「実質賃金」が前年同月より2.5%減ったと発表した。減少は17カ月連続。今年の春闘の賃上げは大半が反映されたが、物価の大幅な伸びに追いつかない状況が続いている。

今年の春闘の正社員の賃上げ率は平均3.58%（連合集計）で30年ぶりの高水準となった。

春闘の賃上げもあり名目賃金は20カ月連続で上昇している。ただ、8月で見ると、名目賃金にあたる現金給与総

額は28万2700円で1.1%増にとどまり、伸び率は2カ月連続で2%を下回った。一方、実質賃金の計算に使う消費者物価指数は3.7%増となり、昨年7月以降、3%を超える大幅な上昇が続く。厚労省の担当者は「物価高が続く中で、今後もすぐに名目賃金が物価の上昇を上回ることは難しい」と話す。武見敬三厚労相は6日の閣議後会見で「国民生活を豊かにしていくために、実質賃金の引き上げが非常に大切だ」と語り、中小企業やリスキング（学び直し）による能力向上の支援に取り組む考えを示した。（檜崎貴司）

食費、11カ月連続前年割れ

総務省が6日発表した8月の家計調査によると、2人以上の世帯が使ったお金は月平均29万3161円だった。物価変動の影響をのぞいた実質で前年同月と比べて2.5%減り、6カ月連続で前年を下回った。物価の伸びに比べて賃金は上がらず、財布のひもは固くなるばかりだ。

支出の3割を占める食料は2.5%減り、11カ月連続で前年の水準を割った。とくに魚介類や肉類への支出が抑

えられている。ただ物価の影響を含む名目の金額は5.9%増えた。物価高で実際の支出は増えているが、買い物の量を減らしていることになる。食費のやりくりが苦勞している様子がうかがえる。

一方、店での飲酒代や、国内外のバック旅行費は増えた。コロナ禍の不安が和らぎ、夏休みもあって、外食やレジャーの消費が持ち直している。

（米谷陽一）